

7. 国際交流

7.1 国際交流委員会

委員長：西村真実子 教授

委員：多久和教授、垣花准教授、岩城准教授、塚田准教授、木森講師

事務局：塚本課長補佐

活動内容：

1. 学生の夏期アメリカ看護研修(国際看護演習) (7.2 参照)

本学では、国際的に活躍できる人材の育成をめざし、夏期アメリカ看護研修(国際看護演習、2単位・45時間)が行われている。参加経費は学生の自費によることから、より多くの学生が参加できるように、研修プランの策定にあたっては、平成27年度も業者にプロポーザル方式でプランを提案させ、経費負担の抑制を図った。その結果、参加経費が338,000円(諸経費含む)となり、15名の学生が参加した。また、今年度の事前学習として、研修内容に応じて日本とアメリカの保健医療制度やその実情などの知識を自己学習させたり自己紹介の英会話を取り入れ充実させた。課題として、施設見学では看護職(特に専門看護師、ナースプラクティショナー等)による活動紹介などを入れること、ワシントン大学基礎看護学の実習室見学で取り上げられるフィジカルアセスメント事例の事前学習を深めること等が挙げられた。今後は、研修プログラムをより一層充実させるために、プログラムの評価方法を検討し、評価結果を基にした改善に取り組む必要がある。

2. 国際交流意識の向上をめざした取り組み

学生および教職員の国際交流意識の向上をめざし、以下について取り組んだ。

1) 国際交流の集い

日時：2015年12月21日(月)16:20～

場所：地域ケア総合センター研修室

ねらい：本学学生が留学生等の講演や対話を通して、異文化の中の多様な価値観に触れ、国際的視野を広げるとともに、海外で学ぶことへの動機付けの機会とする。

プログラム：学生部長挨拶、本学自治会長歓迎の言葉

講話&質疑応答1「日本への留学経験」

アンドレイ・エメリアノフさん(金沢星稜大学、ロシア)

講話&質疑応答2「海外青年研修とニカラグアでの活動」松井さん(本学4年生)

講師を囲んで小グループでフリートーク

参加者：学生36名(1年生23名、2年生4名、3年生6名、4年生3名)、教職員

学生の参加後の感想用紙をカテゴリー化してまとめたものによると、海外経験・留学等に動機付けられた/興味が高まった(アメリカ看護研修参加希望を含む)、価値観の違い(当たり前前なこと/当たり前前ではない)を実感することができた/視野が広がった、「人を理解することについて」考えた、「自分みつめ」になった、異文化を学び外国人を看護できる力をつけた、海外で学ぶときは強い意志が大切、発表した二人はすごい、文化に興味を持つことが海外で学ぶことのきっかけになる等が記載されていて、国際的視野を広げることや海外で学ぶこ

とへの動機付けの機会になったと思われた。今後はこのような国際交流を学生の地域活動として取り上げていくことも考えていく等、工夫が必要である。

2) 教職員向けの英会話の運営および方法の検討

教職員向けの英会話を毎週金曜日に以下のように実施した。主な参加者は20名ほどで、1回のクラスの参加者は「文法クラス」1~11名、「フリートーククラス」1~4名であった。後期は臨床実習のためか、参加者が少なくなっていた。委員会メンバー4名が交替で講師との連絡調整、教職員への周知、当日の準備を行った。

日時：毎週金曜日

(A) 18時~18時50分：グループレッスン(文法を交えた会話)

(B) 19時~19時50分：グループレッスン(フリートーク)

場所：3階演習室4

講師：Mr. Clive Ross

教職員の英語に対するニーズを把握し、英会話運営に活かすために、2016年2月に教職員を対象にアンケート調査を実施し、次年度からは2クラスのうちの一つをプライベートレッスン(予約制)を導入することになった。

3) 国際交流の掲示板の内容の更新

本学の国際交流活動を広く周知するために設けられた学内2か所に国際交流の掲示板の内容を平成27年度版に更新した。内容は、夏期アメリカ看護研修、JICAからの委託研修(パラグアイ等)およびフォローアップの現地視察、全北大学における保健医療福祉の研修である。また、平成28年3月末に訪問した、中国の中医薬大学(江蘇省)および吉林大学看護学部(吉林省)との提携覚書(Memorandum of Understanding)の締結場面も掲示する予定である。

なお、ワシントン大学や韓国の全北大学との学術交流に関する協定書や、昨年度のワシントン大学招聘教授の講義場面や、インドネシアのダルマプルサド大学等との交流写真は継続して掲示してある。

4) その他

英語のe-learning教材「eNetLibe」を活用しやすいように、不具合等への対応の調整を図った。今後はさらにe-learning教材の周知と学生の自学自習に向けた活用促進を検討していく必要がある。また、メール、掲示等により国際交流の機会の紹介を行ってきた。TOFELやTOEICへの挑戦の勧め等、国際交流への関心をより一層高めていく必要がある。

7.2 夏期アメリカ看護研修(学部科目「国際看護演習」)

2015年8月25日~9月7日の2週間にわたり、夏期アメリカ看護研修がワシントン州シアトルで行われ、学生15名(3年生11名、2年生4名)が参加した。

研修内容

1. 講義

- 1) テーマ：「アメリカのナース（NS）の役割・教育・保健医療システムについて」

講 師：上月頼子先生（ワシントン大学看護学部准教授）

内 容：①アメリカの保健医療システム

②アメリカのNSが働いている場（病院・クリニックやそれ以外の場）

③NSが提供しているサービス／メディカルスタッフの中での役割分担（Dr、SW、PT、OT、ST、NSのそれぞれの役割）、日本のNSとの違い

④看護教育制度（NP等のAPNの紹介、ライセンスを得るための教育、権限・責務など）

⑤労働条件、処遇、NSを志望する若者の割合など

- 2) テーマ：「病院におけるチーム医療について」

講 師：南立宏一郎先生（Harborview Hospital）

内 容：日米の医療システム、医師養成課程、訴訟、医療現場の違い

- 3) テーマ：「シアトルのホームヘルスケア」

講 師：上田大二郎先生（Providence Home Services）

内 容：アメリカの医療保険、年金制度、施設の種類や特徴、入院・退院システム、在宅で活動する専門職の役割

2. 語学研修

日常英会話、看護英語など

3. 保健医療・福祉施設の見学

- 1) University of Washington

- 2) University of Washington Medical Center

- 3) University of Washington School of Nursing

- 4) Seattle Children's Hospital

- 5) Harborview Hospital

- 6) Keiro Nursing Home

- 7) Nikkei Manor

国際看護プログラム 夏期アメリカ看護研修 2015

～ ワシントン大学キャンパスで学ぶ ～

	月日 (曜)	都 市 名	発着	交通機関	時刻	日 程	宿泊・食事 (朝・昼・夕)
1	8/25 (火)	小松空港 羽田空港 成田空港 シアトル	発着	NH-754	09:45	着後、リムジンバスにて成田空港へ 一路、シアトルへ 《日付変更線》	(- - 機)
			発着	DL-166	11:00 16:45		
2	8/26 (水)	シアトル	着	専用車	09:45	入国審査後、専用車でワシントン大学へ ホストファミリーと対面。ホームステイ宅へ ワシントン大学へ *大学への行き方、帰り方などホストファミリーから学ぶ バスでダウンタウンへ。Orca Card チャージ メジャーリーグ観戦 (シアトルマリナーズ 対 オークランド アスレティックス)	ホームステイ (機 - ○)
				市バス	09:30		
3	8/27 (木)	シアトル		市バス	09:30	ワシントン大学へ オリエンテーション、 English Lesson (日常英語と看護英語)	ホームステイ (○ ○ ○)
					13:00	Harborview Medical Center へ (通訳付き) ※ER, ICU, 第1級トラウマセンターなど視察 ※南立医師による講義	
4	8/28 (金)	シアトル		市バス	09:30	ワシントン大学看護学部教員によるセミナー 「アメリカのナース (NS) の役割・教育・保健医療システムについて」 ワシントン大学附属病院、看護学部へ *Nursing Lab. ISIS など (通訳付き)	ホームステイ (○ ○ ○)
5	8/29 (土)	シアトル		市バス	10:00	シアトルダウンタウン観光 パイプブレイスマーケット、シアトル図書館、ウオーターフロント など。 フェリーで Bain Bridge Island へエクササイズ	ホームステイ (○ ○ ○)
					午後	終日フリータイム	
6	8/30 (日)	シアトル		市バス	終日	終日フリータイム	ホームステイ (○ ○ ○)
7	8/31 (月)	シアトル		市バス	09:30	ワシントン大学へ English Lesson (日常英語と看護英語)	ホームステイ (○ ○ ○)
					13:30	Children's Hospital へ *病院内視察と看護師によるセミナー (通訳付き)	
8	9/1 (火)	シアトル		市バス	09:30	ワシントン大学へ English Lesson (日常英語と看護英語)	ホームステイ (○ ○ ○)
					13:30	講演「シアトルのホームヘルスケア」 看護師と医療専門チームの在宅サービスについて日本語によるセミナー	
9	9/2 (水)	シアトル		市バス	09:30	ワシントン大学へ English Lesson (日常英語と看護英語)	ホームステイ (○ ○ ○)
					午後	ワシントン大学キャンパスツアー	
10	9/3 (木)	シアトル		市バス	09:30	Keiro Nursing Home へ ボランティアスタッフとして入居者と触れ合い、ケアだけでなくアメリカの日系人の歴史について学ぶ Nikkei Manor へ 軽介護施設での高齢者との触れ合いと看護ケアについて学ぶ。	ホームステイ (○ ○ ○)
					13:00		
11	9/4 (金)	シアトル		市バス	09:30	ワシントン大学へ English Lesson Presentation / Closing ceremony	ホームステイ (○ ○ ○)
					午後	フリータイム	
12	9/5 (土)	シアトル		市バス	終日	フリータイム	ホームステイ (○ ○ ○)
13	9/6 (日)	シアトル	発着	専用車	午前	ワシントン大学に集合 シアトル空港へ 一路帰国の途へ	機内泊 (○ - 機)
				DL-167	13:00		
14	9/7 (月)	成田空港 小松空港	着発着	専用車	15:55	入国審査 小松空港へ 着後、解散	(機 - -)
				NH-3119	18:40		
					19:55		

*現地の訪問予定先の都合や、飛行機の遅延により、日程が変更になる場合があります。 *NH: 全日空 *DL: デルタ航空

7.3 韓国 全北大学校看護大学との交流

7.3.1 提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding)の締結

1. 経緯

本学では、文部科学省の「大学間連携共同教育推進事業」として平成24年度に採択された『学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築』の一プロジェクトとして、「ヒューマンヘルスケア人材育成プロジェクト」事業に主体的に取り組んできた。

同事業において、学生の韓国派遣研修を実施することを企画し、韓国での研修受入先を模索していたところ、石川県の友好交流地域である韓国全羅北道から国立全北大学校の紹介を受けた。その後、同大学校看護大学との間で研修事業の調整を進める中で、先方より本学との提携覚書締結の打診があり、平成26年11月17日付けで締結を行った。

2. 覚書の内容

両大学間で学術・教育面での交流及び協力を推進する。具体的には、以下のことなどについて交流を発展させるよう互いに努力する。

- 1) 教職員及び研究者の交流
- 2) 学生の交流
- 3) 学術的資料、出版物及び情報等の交換
- 4) 共同研究プロジェクトの実施
- 5) 学術会議の企画

7.3.2 韓国 全北大学校看護大学看護研修

1. 研修内容

- 1) 実施時期：平成28年3月20日（日）～3月27日（日）
- 2) 参加人数：14人（1年1人、2年6人、3年1人、4年1人、院生2人、教員3人）
- 3) 内容
 - (1) 事前学習
講義：韓国の歴史・文化、暮らしについて
講師：石川県国際交流協会国際交流員
 - (2) 現地講義
内容：韓国の看護教育・健康課題と対策について
講師：全北大学校看護大学学長
 - (3) 全北大学校看護大学学生との交流
 - (4) 保健・医療・福祉施設の見学
 - ①都市部のフィールドワーク
 - ・医療機関（全北大学病院）
 - ・保健所（全州市保健所）
 - ・高齢者福祉関連施設（金堤老人専門療養院）
 - ・母子保健福祉関連施設（園光大学漢方病院内産後療養病棟）

②農村部のフィールドワーク

- ・保健診療所：処方権を持つ看護師が運営する保健診療所（金堤サンジョン保健診療所）
- ・高齢者福祉関連施設（敬老堂・グループホーム）

(5) その他

全羅北道内、ソウル市内の歴史文化施設等の見学・体験

(参 考)

国立全北大学校について

1951年設立の韓国西南部地域における中心的な役割を担う総合大学

学生数：約 32,000 人 教員数：約 2,700 人

7.4 中国 南京中医薬大学との交流

本学は2016年3月28日に南京中医薬大学と提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding)を締結した。地域社会と国際社会に貢献する人材育成が推進されている中、アジア地域の健康に貢献すべく今後教職員および学生の交流を深め、ともに学術的に発展していくために努力することを確認した。

7.5 中国 吉林大学看護学院との交流

本学は2016年3月29日に吉林大学看護学院と提携覚書(MOU:Memorandum of Understanding)と学生交流プログラムの合意書(Student Exchange Program Agreement)を締結した。吉林大学では石垣学長の講演「Aging Asia and Innovation for the Elderly in Japan」があり、大学院生、教員が熱心に聴講した。

地域社会と国際社会に貢献する人材育成が推進されている中、アジア地域の健康に貢献すべく今後教職員および学生の交流を深め、ともに学術的に発展していくために努力することを確認した。